

新聞記事に見る 徳島大学の地域連携事業

事業名	連携先自治体等	大学担当部局	実施期間・備考
高齢者の生きがい・健康づくり事業	徳島市役所	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	H15.6～この事業は、「健康づくり・介護予防事業」に含まれて継続中
徳島県難病医療ネットワーク事業	徳島県保健福祉部健康増進課、徳島保健所	病院神経内科、地域医療連携センター	H14.4～
休日診療	徳島市歯科医師会	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔腫瘍制御学	H14～
徳島大学病院(地域医療連携センター)及び徳島保健所連絡会	徳島保健所	病院地域医療連携センター	H13～
徳島県未熟児サポート事業	徳島県保健福祉部健康増進課、県内各市町村	病院周産母子センター	H9～
補聴器装用相談事業	徳島県障害者更正相談所、徳島県立身体障害者福祉センター	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部耳鼻咽喉科学分野	H3～
補聴器巡回相談事業	徳島県障害者更正相談所、徳島県立身体障害者福祉センター	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部耳鼻咽喉科学分野	H2～
心身障害児(者)の歯科診療及び予防歯科についての相談指導	徳島県歯科医師会	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部小児歯科学分野	S61～
1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査事業	徳島市	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部小児歯科学分野	S61～
母子保健事業	石井町	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部小児歯科学分野	S56～

産学官連携

事業名	連携先自治体等	大学担当部局	実施期間・備考
祖谷そばまるごと利用技術開発事業	徳島県工業技術センター／西部総合県民局	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生薬学分野／衛生薬学分野	H25.4～
薬用植物の栽培に関する研究会	徳島県(農林水産総合技術支援センター)	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生薬学分野／薬学部薬用植物園	H24.11～
「農」と「食」の再生―農商工連携、6次産業化ビジネスモデル研究― 「薬用植物関連産業の振興」に関する基礎調査	徳島県(地域振興総局、徳島県立農業水産総合技術支援センター農業大学校、徳島県立総合大学校)、美馬市	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生薬学分野／薬学部薬用植物園	H24.6～
とくしま集落再生プロジェクト―薬草・薬膳料理の普及―「阿波☆美粥プロジェクト」	徳島県(地域振興総局)	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生薬学分野	H23.12～
とくしま経済飛躍ファンド 農商工連携枠	公益財団法人とくしま産業振興機構、徳島県立工業技術センター、徳島県農林水産総合技術支援センター	産学官連携推進部	H23～
徳島ICT研究協議会	徳島県企画総務部、徳島商工会議所、徳島県商工会連合会、徳島県経済同友会、鳴門教育大学 ほか 県内公的機関、大学等	情報化推進センター	H22.9～
地域イノベーション控ラスタープログラム グローバル型(グローバル拠点育成)	徳島県商工労働部産業振興課、とくしま産業振興機構	産学官連携推進部	H21.4～H26.3 知的クラスター
出前科学実験教室 「やっToku, なっToku, Dai実験」	吉野川市アメニティセンター、勝浦町教育委員会、佐那河内村教育委員会	大学院ソシオテクノサイエンス研究部総合技術センター	H20～、H20～、H21～
阿南地域の竹林管理手法検討会	徳島県南部総合県民局、JA阿南、阿南市(南から届ける環づくり会議)	大学院ソシオテクノサイエンス研究部エコシステムデザイン部門(工学部建設工学科)、環境防災研究センター	H20.6～
産学連携人材育成講座	徳島県立工業技術センター、徳島県東部保健福祉局徳島保健所、市岡製菓株式会社、四国化工機株式会社、西精工株式会社、株式会社ジェイテクト、大阪市立大学、首都大学東京、高崎経済大学、甲南大学、広島国際大学、追手門学院大学	産学官連携推進部イノベーション人材育成部門	H17～
放射線に関する啓蒙事業		アイソトープ総合センター	H19～
南から届ける環づくり会議	徳島県南部総合県民局、南から届ける環づくり会議	環境防災研究センター	H18.7～
長期インターンシップ事業	徳島県立博物館、ニタコンサルタントなど 公的機関、企業等	長期インターンシップ委員会(先端技術科学教育部)	H18.10～
徳島ビジネスチャレンジメッセ	(社)徳島ニュービジネス協議会	産学官連携推進部	H15～
インターンシップ事業	徳島市役所ほかの官公庁、徳島新聞社ほかの企業等	インターンシップ実施検討会議、就職支援センター―連絡会議、学務部学生生活支援課	H12.6～

地域づくりセンター
徳大と美波町
協定結び開設

徳島大学と美波町は1日、持続可能なまちづくりをテーマに防災や地域振興で連携を図る協定を結び、町由岐支所に徳島大学地域づくりセンターを開設した。



事務室近くの応接スペースも住民との交流の場として活用し、防災に関する相談に署名する香川学長(右)と影治町長(左)が協定書を交わし、町役場で調印式があり、香川征学長と影治信良町長が協定書を交わし

た。協定では、地域づくりセンターを設置し、防
災や地域振興などに両者が協力して取り組むほか、人材育成も図る。期間は2014年3月末までで、毎年度末に延長を判断する。
センターは、支所3階の旧由岐町議会議事室に開設。12年3月から由岐地区で震災に備えたまちづくりを研究している同大大学院生が活動拠点とするほか、町を訪れる学生や研究者も利用す

平成25年7月2日 [徳島新聞]

談に感じる。住民が作った竹人形やタペストリーなども展示している。(城福章裕)

町の将来像
住民ら議論 美波
美波町のまちづくりに
ついて考えるタウンミー
ティング(徳島大学地域
創生センターなど主催)



美波町の未来について意見を発表する参加者―美波町西の地の由岐公民館

の良さを知る教育の充実などが出された。将来のために各自ができることも議論し、祭りを通じた世代間交流や、住民の語り場つ

が30日、同町西の地の由岐公民館で開かれ、町内の75人が町の将来像について考えた。
住民らは4、5人の班に分かれて意見交換。どの班でも防災や若者の流出、雇用などが町の課題として挙げられた。それを踏まえ、未来の町に望むこととして、津波の恐れがない高台への公共施設や住宅の整備、海や水産資源の活用、ふるさとの良さを知る教育の充実などが出された。将来のために各自ができることも議論し、祭りを通じた世代間交流や、住民の語り場つ

くりなどが提案された。西の地の山田恭州さん(19)は「町外のひとと議論し、地元がさらに好きになった。多くの人がつながり地域づくりに結びつけていきたい」と話した。
意見交換に先立ち、宮城県南三陸町の復興推進ネットワークの及川博道代表(36)らが東日本大震災被災地での復興活動について講演した。(城福章裕)

平成25年12月1日 [徳島新聞]

教育や研究の連携推進



県・徳大・明大が協定

徳島県と徳島大学、明門性を生かし、農業分野
治大学は3日、教育や研の人材育成や産業の活性
究の連携を推進する協定 化などを図る。
を締結した。両大学の専 協定書では、教職員や

協定書を手握りする
(左から)香川徳島大
学長、飯泉知事、福宮
明治大学長、徳島市の
徳島グランヴィリオホ
テル

学生の交流、共同の教育
・研究プロジェクト、人
材育成事業、地域活性化
事業などの推進を明記。
具体的には、付加価値の
高いマツタケや朝鮮ニン
ジンの人工栽培、新しい
営農スタイルの開発に取
り組むほか、医療やスポ
ーツ、文化の分野での交
流を進める。

徳島市の徳島グラン
ヴィリオホテルであった調
印式では、飯泉知事、
明治大学の香川征学
長、徳島大学の福宮賢一
学長が調印した。

(矢田諭史)

平成25年11月4日 [徳島新聞]

モラエスの心情に迫る



シンポジウムでモラエスをめぐって意見交換する
徳大と明大の研究者ら—東京都千代田区の明大

徳大研究者ら 明大でシンポ

晩年を徳島で過ごした
ホルトガルの文人モラエ
ス(1854~1929
年)をめぐるシンポジウ
ムが1日、東京千代田区
の明治大学であった。徳
島大学や明大の研究者ら
が、モラエスの軍人・外
交官としての側面などに

光を当てて意見交換し、
日本と徳島を愛した心情
に迫った。

明大文学部の山田朗教
授は「神戸領事のモラエ
スがホルトガルの新聞に
寄稿していた日本通信
を、列強のフランスやロ
シアが日本を知る重要情

報として分析していた」

と指摘。神戸で一緒に暮
らしたおヨネの死後、追
慕の念から徳島に移住し
たモラエスの心情につい
て「激しさを増す軍拡競
争と外交戦に疲れて、外
交官・軍人としてやって
いく意欲もうせたのかも

しれない」と話した。

徳大総合科学部モラエ
ス研究会代表の宮崎隆義
教授は「モラエスが神仏
の町と見た徳島で、記憶
の中に大切な人を永遠化
するロマンチズムも感
じる」と述べた。

佐藤征弥徳大准教授と
徳島日本ホルトガル協会
の桑原信義会長はモラエ
スの著述や生涯を解説。

石川榮作徳大教授が「モ
ラエスが日本文化や家族
の中に見た美しい日本を
残す努力をしたい」と締
めくくった。

シンポジウムは県と徳
大、明大が結んだ教育・
研究の連携協定に基づ
き開かれ、約200人が
聞き入った。

(玉田友昭)

平成25年12月2日 [徳島新聞]